

田代よいとこーその30ー三増合戦 その2(最終回)ー

<今に残る戦の跡>

戦国時代最大の山岳戦・三増合戦は、武田軍の勝利に終わりました。450年近く前の戦ですが、現在でもその戦跡、遺物を見ることができます。以下主なものをご紹介します。

【首塚と胴塚】

首塚は、戦死者の首を祀ったと言われていいます。農村環境改善センター下の道端の丘上にあります。弘化2年(1845)に不動尊が建てられてからは「不動堂」とも呼ばれるようになりました。宝永3年(1706)9月に建てた傍らの碑には、当時この辺りに戦死者の幽霊が出るので念仏供養したと刻んであります。

胴塚は、戦死者の胴を葬った塚と言われていいます。首塚の前の道を隔てた志田沢沿いにある塚です。ここから昭和の初めに小刀が一振り出土したそうです。



首塚(不動堂)

【浅利墓所と浅利明神】



学区で言うと高峰小学校になります。金山原の丘の上にあります。元禄(1700)3月、曾雌常右衛門知義(そしつねえもんともよし)という人が、主人・牧野備前守(まきのびぜんのかみ)の命によりこの地を検分した折に、自分に縁のある浅利信種(あさりのぶたね)がここで戦死したことを知って「浅利墓所」という墓標を建てたのが始まりです。その後、寛政元年(1789)に村人が墓の傍らから小さな瓶を見つけました。村人はその中に信種の遺骨が入っていると云って丘の下に埋め、別の碑を建て、覆屋(おおいや)を設けました。これが「浅利明神」(浅利様ともいう)です。戦前まで参詣する人々で賑わい、立願成就の際には木の太刀をおさめる習わしがありました。

上：浅利明神 下：社殿内部。奉納の木太刀が見えます。

【この他の戦跡・遺物】

このほかに、武田信玄旗立松蹟址碑(写真右)三増合戦場碑(同左)などがあります。



旗立松から見た平山地区



三増合戦場碑



武田信玄旗立松蹟址碑

旗立松は、合戦場が一望のもとに見渡せる中峠に信玄が旗を立てたという松の巨木でしたが、枯れてしまい、その跡に高峰村青年団が石碑を立てました。昭和3年11月のことです。